

令和5年度 学校評価報告書

小樽市立稲穂小学校
校長 遠藤 隆典

1 本年度の重点目標

◎学校教育目標 「りこうで たっしやで ほがらかな稲穂の子」
重点=具体的に目指す子どもの姿 ○わかったことや思ったことを表現することができる(ICTも含む) ○自分の体を知り、体力向上や健康に気を付ける ○より良いものを作り出すために学級・学年や異学年と協働できる ○人の話や文をしっかり理解し、行動することができる ○学習したことや他の意見、調べたこと(ICTを含む)をもとに答えを見付ける ○自分の言動に責任をもち、より良い行動を考え、進んで取り組む ○相手意識をもち、全ての人が等しく価値ある存在として大切にす ○いじめを許さず、自他の命を大切に行動をとることができる

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	全国的学力調査の平均正答率が全国以上	B	全国学力・学習状況調査結果は、国語は全国比-6.2p、算数は全国比-1.5pだった。標準学力調査では、3年、5年共に国語・算数の全国平均正答率を上回った。	◎
	特別支援教育の充実	特別支援教育に関する研修を5回以上実施する。通常学級における特別な支援を要する児童の指導計画の中間検証・見直しを100%行う。	A	特別支援教育に関する研修を2学期までに8回実施。特別支援学級在籍児童、通級指導教室通級児童、並びに通常学級に在籍する支援が必要な児童における個別の指導計画は100%達成した。	◎
	国際理解教育の充実	OEC(小樽イングリッシュ・キャンプ)、WES(ウインター・イングリッシュ・スクール)や英検に複数人参加	A	OEC・WESに複数名参加した。青園中学校で行われた英検講習会にも複数名参加した。	◎
	理数教育の充実	算数・理科の授業で、考えを説明したり話し合う活動を日常的に取り入れていると回答する授業者90%以上	A	「算数・理科の授業で、考えを説明したり話し合う活動を日常的に取り入れている」の肯定的回答は90.9%であった。日常的に考えを発表や端末にかき込む活動が多く行われていた。	◎
	情報教育の充実	各学年のタイピング技術達成80%以上	A	数値目標の達成を数値で把握する評価ができなかったが、全学年でタブレットのタイピングアプリを日常的にこまめに活用した取組が行われほぼ全ての児童のタイピング技術が大きく向上していることを確認している。	◎
	キャリア教育の充実	勤労観や職業観を育む施設見学や外部講師による授業を3学年以上の全学年で実施する。	A	5年生「総合的な学習の時間」で職場体験を行ったほか、全学年で外部講師を招いたり、訪問によるキャリア教育を実施した。	◎
改善方策	・各教科の学習において、子どもが主体的に端末活用など個別最適な学びを選択しながら考えをわかりやすく表現していく活動や他者の考えを読みとり説明する活動を今後も継続して全校で位置づけていく。また、育成すべき資質・能力における課題の改善に向け重点化を図った活動や学習指導を行っていく。誰一人取り残さず全ての子どもの可能性を引き出す教育を目指し、教職員が、子どもの主体的な学びを支え、伴走していくかかわりを目指した実践に全職員で取り組み、確かな資質・能力の育成につなげていく。				
学校関係者評価委員による意見	評価・改善策は適切である。学校では国際理解教育として英語が中心に学習活動として行われている状況だが、子どもたちの異文化交流や国際理解にが深まる小樽の地域性を生かした取組も行われ国際理解の資質・能力の向上につながる事を期待している。				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	道徳の授業で、自分の考えを深めさせる学習活動を日常的に取り入れていると回答する授業者90%以上	A	「道徳の授業で、自分の考えを深めさせている学習活動を日常的に取り入れている」の肯定的回答は100%で全校で取り組まれている。自分ごととして考え深める道徳授業への工夫改善を全校で行っている。	◎
	ふるさと教育の充実	副読本や地域の教育資源・人材を活用したふるさと教育を全学年で実施する。	A	1,2年生の生活科「まちたんけん」や3~6年生の総合的な学習の時間において全学年で外部講師を活用した授業を行った。	◎
	読書活動の推進	読書が好きな児童90%以上	B	全校で一斉読書や隙間読書の働きかけ、端末での読書可能な環境整備や各階のベンチ周辺での読書環境整備を進めるなど、多角的に取り組みを進めたが肯定的回答は1学期末78.0%、2学期末68.3%と目標を下回った。	◎
	体験活動の推進	ボランティア活動体験80%	A	6年生が1年生と一緒に校舎周辺道路のゴミ拾いを行った。3年生が花壇ボランティアと共同で作業を行った。3学期に3・4年生が、見守り隊の方に感謝の手紙を書く活動を実施した。	◎
	コミュニケーション能力の育成	授業での話し合い活動を通して、自分の考えに役立っていると考える児童の割合を90%以上	A	「授業では、友達の話聞いて話し合い、自分の考えに役立っている」肯定的回答1学期末90.1%、2学期末93.4%で達成した。	◎
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う95%	B	「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した割合は、全学年で1学期89.0%、2学期87.81%で目標を下回った。	◎
改善方策	・読書に親しむ環境作りを一層工夫していくと共に、読書活動の機会を各学級で意図的に増やしていく。いじめは絶対にゆるぎないことだと回答した児童が9割以下であることを全職員で重く受け止め、全校朝会や各学級活動において、いじめ0へ向けた働きかけを全校で重点化して指導していく。全職員で児童に丁寧に目を向けあたたかいかわりを行い個々を認め合う心理的安全性の高い学級学年集団をつくりあげる取組を継続すると共に、豊かな学びにつながる人や地域と関わる体験的な活動の充実を今後も増やし充実させていく。				
学校関係者評価委員による意見	評価・改善策は適切である。「いじめは絶対にいけないことだ」と思っていない児童がいじめアンケートの1・2回ともに同様程度いることが気になる。悩んでいる子どもがいるという前提で、アンケート意外にも子どもが相談やSOSを発信して伝えられる方法を知らせたり手立を工夫して行くことが重要だと考える。そして、今後も子ども1人1人へ丁寧に目を向け教育相談等によりしっかりと児童理解を深めていってほしい。				

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	新体力テスト合計点で全国平均以上の学年70%以上	A	春・秋の2回、全校で新体力テストに取り組んでいる。政府統計体力運動能力調査R4結果と比較し、1年男子、2年男女、3年男女、4年男女、5年男女が半分以上の種目で全国平均を上回った。	◎
		食育の推進	栄養教諭等による食育の授業と「給食メモ」を活用した学級指導の全学級実施	A	全学年・全学級において栄養教諭による食育の授業を実施した。	◎
		健康教育の充実	外部講師による健康や性教育に関する出前授業の実施2学年以上	A	4年生保健の授業で協会病院産婦人科医による授業(2時間×2学級)を実施した。6年生に済生会病院看護師によるがん教育を実施した。	◎
改善方針	・行動制限緩和以降、体育や外遊びなどが本格的に再開したが、猛暑による運動制限もあり、運動機会の充実に苦労することが多かった。端末における体力テストデジタル集計システムの導入と活用、体力テスト上位記録の掲示などを通して、個々の運動能力への課題意識を高めることができた。今後も、チャレンジ2023による主体的な運動機会づくりや日常生活の中での体力づくりの機会・方法を工夫していく。また、中学校体育教師と連携した運動能力向上を目指した授業づくりを継続・発展させていく。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善策は適切である。子どもの成長にもなって性に関する偏った知識・理解を得ていくことに保護者として心配になる。性教育が毎年4年生で学習指導要領を踏まえて出前授業が実施されていて素晴らしいが、内容的に踏み込んだ性教育の実施も可能であれば検討してほしい。給食の量は適切なか気になっているが、市内全体での残量を考えるとフードロスとなっていることは懸念材料である。感染予防に気を付け向き合って食べたり話したり時間が少し再開できたことはよかった。楽しい給食時間になることを願っている。					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	年間複数回の生活リズムチェックシートの活用+保護者面談での活用100%	A	1学期・2学期に1週間ずつ生活リズムチェックシートを活用し、児童の自己指導力育成を図ったり保護者と共有したりした。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	コミュニティースクールとして、地域の方と協力した児童・保護者向けの事業を1つ以上実施する。	A	CSとして、学校花壇の取組、夏休み朝のラジオ体操実施をサポートした。PTAのハロウィンパレード、雪あかりの路も新たに実施した。保護者アンケート「学校はCSとして地域・家庭と協働してよりよい学校づくりを進めている」の肯定的評価が2学期末93.2%だった。	◎
改善方針	・PTA活動が再開となり学校と保護者・地域が連携した潮ねりこみ、夏休みの朝のラジオ体操、地域商店街と連携したハロウィンパレードや雪あかりの路の取組を実施し、多くの児童と保護者が多数参加した。今後も地域とのかかわりを深める活動を児童に体験させる教育活動及び事業を検討・実施していく。CSの学校運営協議会委員に各種教育活動の詳細を知らせると共に学習発表会にて学校全体の様子を参観していただくことができた。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善策として適切である。今年度も商店街の一員として協力させていただいたが今後も子どもたちのために協力していくつもりなので、家庭・地域との協働を大切にして学校運営を進めていくことを期待している。					
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	中学校の授業参観、全教職員の90%	A	西陵中学校の公開研究会へ全職員が参加した。本校の公開研究会にも中学校より教職員が複数参加した。また、長期休業のずれを活用した授業参観を実施した。	◎
		教育環境の整備・充実	教育環境点検を毎月1回以上実施	A	教育環境点検を月1回以上行い、必要な修理改善を行っている。職員室モニターと端末を連携させた情報共有などICTを活用した教育環境充実を実現し学校教育情報化を推進させることができた。	◎
		教職員の資質・能力の向上	職能向上につながるミニ研修を年間10回以上実施する。	A	ミニ研修を、2学期までに15回実施した。その他各自によるオンデマンド研修・オンライン研修を全職員で実施した。	◎
		学校運営の改善	月45時間以上の超過勤務15%以下	A	月45時間以上の超過勤務の割合は4月～11月で約14.9%であった。昨年度より、超過勤務時間を減らすことができています。	◎
		学校安全教育の充実	防犯教室及び防犯訓練の複数回実施	A	小樽市警察署の協力で、1年生を対象の防犯教室、教職員対象の不審者対応訓練と全校児童の不審者侵入時の避難訓練と講話を実施した。	◎
改善方針	・中学校との一貫教育充実へ向けてグランドデザインを見直し、全職員が部会に所属し連携の取組を協議し推進していくことができた。ICTを活用した学校教育情報化を様々な角度で進めたことで、情報共有と協働的な業務推進がより一層高まり働き方改革を進めることができた。防犯訓練をもとに不審者侵入時に備え緊急対応を周知する防犯ブザーを設置することができた。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善策ともに適切である。働き方改革で勤務時間の改善が進んでいるが、業務を持ち帰らざる終えない状況もあるので、見だ目の成果だけでなく抜本的な業務改善が進むように更に力を入れていってほしい。この度の災害から、災害時にトイレは使えるのかなど学校施設でできることを確認する事も必要だと感じた。今年度、教育環境改善としてトイレの改修が行われ良かった。教職員の職場改善にもつながったと感じる。暑さ対策ではエアコンが学校に配備されることで、場合によっては子どもは学校にいた方が安全という状況も想定されるかも知れないので、状況に応じて適切に対応して行くことが大切である。					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		市立図書館や総合博物館などの社会施設を活用した授業の全学年で実施	A	1年生給食センター見学 2年生図書館の司書による授業や3年生博物館見学、4年生屋形船・下水処理場見学、5年生環境プログラム、6年生ウボボイ・火山科学館見学など社会施設を活用した。	◎	
改善方針	・市中心部に位置する本校の地域性を生かし、地域の施設や学芸員等の講師を招いた体験的な教育活動の充実に今後も取り組んでいく。今後、探究的な学びの場として、個々が課題意識を高めて社会施設における学びを行っていく活動を検討・実施していく。					
学校関係者評価委員による意見	評価・改善策ともに適切である。					